

コラム

人と人とのつながりの先に目指すもの

皆さんは津市まん中広場で年1回開催されている「ありのままコンサート～障害のあるあなたも そうでないあなたも～」を知っていますか。NPO法人ピアサポートみえ（※1）、地域活動支援センター・スタジオピア（※2）が主催し、毎年10月に開催され、昨年で4回目を迎えました。

コンサートには11組のグループが出演し、各グループはそれぞれ個性的で、人数や楽器の編成、曲目などバラエティーに富んでいました。

今回、私は初めて訪れましたが、最初は障がいがあることで「演奏に支障が出ることはないのかな」という思いで見えていました。しかし、演奏が進むにつれて、そんな思いは決めつけであり、思い込みだということに気付いていきました。それは一人一人が自分の持っている力を発揮して、懸命に演奏する姿や手拍子を打ったり、体を揺らしたりしながらリズムを取り、楽しそうに聴いている姿を見て、音楽を楽しむのに障がいの有無は関係ないということを感じることができたからです。

このコンサートは音楽を通して、障がい者に対する理解を広げることと、障がい者問題について考える機会を持ってもらうことなどを狙いとして

います。また、障がいの有無に関係なく、全ての人がつながることを目指しています。

コンサートのタイトルに使われている「ありのまま」という言葉には、障がい者は障がいを隠さなくていいという思いを込めています。「ありのまま」で生きることができる社会をつくるためには、障がいに対する偏見や差別をなくしていくことが必要です。そのためには、コンサートを通してできたような「人と人とのつながり」を、まだつながっていない人との間にもつくり上げていくことが大切です。

私は実際にコンサートを見て、障がいについて理解を深めるとともに、あらためて音楽が持つ素晴らしさに気付くことができました。今後も一緒に音楽を楽しみながら、障がいに対する理解を広げるため、自分ができることに取り組んでいきたいと思っています。

※1 NPO法人ピアサポートみえ…誰もが共生することのできる社会の実現を目指し、市内で障がい当事者の視点から障がい者が自立した活動を営むために必要な事業や支援を行っている団体

※2 地域活動支援センター・スタジオピア…主に精神障がい者の活動を支援することを目的に津市丸之内に開設された施設

市民人権講座を開催しました

外国人の人権について

昨年11月17日、サンデルタ香良洲で市民人権講座が開催され、多文化共生ネットワークエスペランサ代表青木幸枝さんによる「外国人の人権～私たちが幸せになる社会のために～」と題した講演がありました。

青木さんは、外国につながる子どもの家庭への支援を行っています。食料や赤ちゃんのミルクが買えなくなり、困窮している家庭などからSOSを受けて活動を行っているそうです。

講演の中で、外国人に起こったことは、数年後には必ず日本人にも起こると話されました。平成20年9月のリーマンショックによる世界的な金融危機の影響で、企業では外国人労働者を解雇する動きが始まりました。これら外国人への根本的な経済的差別を解消する対策が進まないまま、その後、日本人の間にも経済的に困難な家庭が増えていきました。厚生労働省が発表した子どもの貧困率では、6人に1人が貧困状態となっています。市民活動を続ける中で、このことは外国人のことと切り離して考えるのではなく、根本的には、私たちと同じ問題であるということを感じたそうです。

次に、外国につながる子どもという言葉についての話があり、外国人といっても、ひとくくりにできないこと、例えば、外国籍の子どもや、外国籍と日本国籍を持っている二重国籍の子どもがいること。その一方で日本国籍だが、外国人の身体的特徴の強い子どもがいること。また、これら外国につながる子どもたちは、言葉の面でも、母国語しか話せない外国人、外国語のみしか話せない日本人、日本語のみしか話せない外国人など、多岐にわたっていることに触れられました。

また、外国人への偏見や差別に対して、外国につながる子どもたちの「どうして外国人の誰かが悪いことしたら、外国人のみんなが悪いと言うの?」「他の人がしたことで、私が悪いと言われるのがすごく悔しい。私たちは一人一人が違った人間であることをわかってほしい」という言葉が紹介されました。

そして、私たちは外国人も同じ人間であり、かけがえのない存在であるという思いから活動しています。皆さんご協力をお願いしますという話で講演が締めくくられました。